

山王台だより 12月号



【学校教育目標】「自分のよさに気付き、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる」

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

読書で豊かな感性を～読書週間より～

校長 志田 一彦

IT技術の進歩によって生活が便利になり、それに合わせたライフスタイルの変化はめざましいものがあります。ところが、昨今、テレビや新聞で報道される子どもが引き起こす事件の中には、子どもたちの心の荒廃をうかがわせるような事件が少なくありません。その背景には様々な要因が考えられますが、コミュニケーション不足や言葉による表現力の衰退なども少なからずあるのではないのでしょうか。

子どもたちが社会に適応できるように、学校での学習や生活の充実、家庭や地域でのしつけや支援等、学校、家庭、地域全体で子どもを育てていくことの大切さを感じています。

以前、こんな話を聞いたことがあります。

「いろいろな事件の当事者に共通しているのは、想像力が足りないことである。今の時代は、本を読んで想像力を膨らませる経験が少なく、考えたり想像したりする前に、結果がすぐに分かってしまう。自分で本を読んだり、物語を聞いたりすることで、文字と言葉が想像力を育て、先を読む力や人の気持ちを推しはかる力が培われてくる。」
読書のもついろいろな意義を考えさせられる内容でした。

11月は本校で読書週間が開かれました。図書委員会が手作りの巨大ペープサートを使いながら読書集会でお話を発表したり、全教職員が子どもたちへのおすすめの本を紹介したり（図書室前の廊下に掲示）、自分の学級担任以外の教員が読み聞かせを行ったりして、子どもたちが読書に親しむ機会を設けました。

また、年間を通して毎週火曜日には15分間の朝読書の時間を設定しています。読み聞かせボランティア（マザーグースの会）の方々が、子どもたちが興味をもつような本を選び、読み方や読む場所も工夫しながら、楽しく読み聞かせをしてくださっています。

先日、その様子を見てまわりましたが、子どもたちが目を輝かせながら物語の世界に浸っている姿が印象的でした。物語に表現されている言葉から次々と想像を広げて、自分の世界を思い描いているようでした。

読書週間終了後も、引き続き、読書の楽しさを味わわせ、豊かな感性や想像力を培っていきたいと考えています。

はやいもので、今年のもめくりのカレンダーも残すところあと1枚になりました。子どもたちに大きなけがや病気がなく、無事に年越しを迎え、これからも楽しく安心して学校生活を送ることができるように、保護者や地域の皆様方と学校が一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

皆様のご支援、ご協力に感謝しつつ、少しはやいですが、来年も皆様にとってよい年となりますよう、お祈り申し上げます。

音楽朝会に、ぜひご来校ください。

12月10日（月曜日）8時20分より